

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 8-5

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武中央地区土地改良事業調査業務			
評価者	担当課・係名	産業振興課基盤整備係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	石井弘道	氏名
				係長
事業の概要	国営雄武中央地区の肥培かんがいにおいて、良質の液状きゅう肥としてのスラリー生産、それによる肥培効果・労力節減効果を高めることを主眼とし、末端施設計画を立案するにあたり、受益農家の実態及び要望を調査する。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 登載事業 <input type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	
	基本政策	1	農業の振興	
	単位施策	1	土地基盤の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	6,876千円	4,984千円	4,000千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	0千円	0千円

2 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が(対象)】	国営かんがい排水事業受益者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	良質の液状きゅう肥が必要。			
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	良質のスラリーの生産。		指標(指標計算式／解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	肥培かんがい整備による安定した農業経営。		①	目標年度 目標値 実績値 達成度 年度
			②	目標年度 目標値 実績値 達成度 年度
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
①調査	受益農家の実態及び調査。			
②				
③				

3 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	肥培かんがいにおいて、良質な液状きゅう肥としてのスラリーの生産を行い、肥培効果・労力節減効果を高めるべく、末端施設の計画立案に必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	当該事業の実施により、受益農家の実態・要望が、より末端施設計画に反映される。
	<input type="checkbox"/> 達成	
有効／概ね有効／課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	十分に削減措置済みである。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的／概ね効率的／課題あり	<input type="checkbox"/> 人員抑制	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

☐ A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方等に改善が必要
☐ C：事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
適切な末端施設計画立案に不可欠であり、計画どおり事業を進めることが適当である。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持		
国営かんがい排水事業完了年前年（平成20年度）までは、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分

☐継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 ☐終了
 ☐休止
 ☐廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 8-6

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	オホーツク西部2期地区道営広域農道整備事業			
評価者	担当課・係名	産業振興課基盤整備係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	石井弘道	氏名
		職名	係長	氏名
			永井栄次	
事業の概要	農産物流通市場の拡大や大型輸送化等の情勢に対応した合理的な農道網の配置や、これに連動する基幹農道を整備することにより、基幹作物の生産性の向上及び一貫した流通体系を確立し、本町農業の安定と拡大を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 ■ 非登載事業		
	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	
	基本政策	1	農業の振興	
	単位施策	1	土地基盤の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	24,744千円	16,400千円	千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	2,544千円	1,700千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民・受益者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	合理的な農道網の配置、連動する基幹農道の整備。		道路整備延長		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	基幹作物の生産性の向上及び一貫した流通体系の確立。		指標(指標計算式／解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	生産流通におけるコストの低減、本町農業の活性化を図る。		① 道路整備延長／舗装延長	目標年度 目標値 実績値 達成度	19年度 L=1,820m L=1,820m 100%
			②	目標年度 目標値 実績値 達成度	年度 % %
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①道路整備	舗装工 L=1,820m				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	農産物流通市場の拡大や大型輸送化等の情勢に対応した合理的な農道網の配置や、これに連動する基幹農道を整備することにより、基幹作物の生産性の向上及び一貫した流通体系を確立し、本町の農業の安定と拡大を図るため必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	継続して計画路線の整備が進められ、合理的な農道網の配置と受益農家の経営合理化が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	十分に削減措置済みである。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
平成19年度にて、事業完了。		

今後の展開方向

(Action)

終了		

* 展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 8-7

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事 務 事 業 名	枝幸南部地区国営総合農地開発事業償還負担金					
評 価 者	担当課・係名	産業振興課基盤整備係				
	課長等	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	永井栄次
事 業 の 概 要	平成１１年度に竣工した枝幸南部地区国営総合農地開発事業の地元負担金の償還					
事業の位置付け	第５期総合計画	■登載事業 □非登載事業				
	政 策 目 標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～			
	基 本 政 策	1	農業の振興			
	単 位 施 策	1	土地基盤の充実			
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務				
	その他計画・根拠等					
事業コスト (実績)	年 度	平成１８年度		平成１９年度		平成２０年度（予定）
	総 事 業 費	170,778 千円		4, 8 4 3 千円		4, 8 4 2 千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 （一般財源）	101,406 千円		5 7 6 千円		千円

2 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が(対象)】	枝幸南部地区 受益者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	一部滞納あり。		負担金の納入		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	100%の納入。		指標(指標計算式／解説)	目標値及び実績値	
			① 4, 842千円	目標年度 19年度 目標値 4,842千円 実績値 4,267千円 達成度 88.1%	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	償還負担金の完納。		②	目標年度 年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
①償還負担金の請求事務	・ 納付書の発行。 ・ 滞納者への納入督促。				
②					
③					

3 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必 要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	事業償還負担金のため必要。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

課題あり	設定した目標値 の達成状況	100%の納入に向け、努力する。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input checked="" type="checkbox"/> 下回る	
有効／概ね有効 ／課題あり		

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

—	判断の理由	—
	<div><input type="checkbox"/>事業費抑制</div> <div><input type="checkbox"/>人員抑制</div> <div><input type="checkbox"/>時間短縮・作業軽減</div> <div><input type="checkbox"/>その他</div>	
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A：計画どおり事業を進めることが適当
 B：事業の進め方等に改善が必要
 C：事業規模、内容、実施主体の見直しが必要
 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A	B	
事業償還負担金のため必要。	滞納がある。	

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持	継続／現状維持	
事業償還負担金のため必要。	滞納者について早期解決を図るとともに、今後離農者があった場合は、その時点で整理すること。	

* 展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 8-8

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	幌内地区道営公共牧場整備事業			
評価者	担当課・係名	産業振興課基盤整備係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	石井弘道	氏名
			係長	永井栄次
事業の概要	公共牧場として、草地整備、施設・機器の整備を進め、牧場の有効利用による農家の労力削減、特に哺育牛の労力軽減による経営拡大を進め、地域酪農振興を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	
	基本政策	1	農業の振興	
	単位施策	1	土地基盤の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	29,690千円	11,411千円	千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	0千円	0千円	千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	(有)おうむアグリファーム	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	草地、施設・機器の老朽化の解消。		草地整備・隔障物整備		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	牧場の有効利用による農家の労力軽減。		指標(指標計算式／解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	農家の経営拡大を進め、地域酪農振興を図る。		① 草地整備 ／面積	目標年度 目 標 値 実 績 値 達 成 度	19年度 A=61.4ha A=61.4ha 100%
			② 隔障物整備 ／延長	目標年度 目 標 値 実 績 値 達 成 度	19年度 L=17,742m L=17,742m 100%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①草地整備	(繰越) A=30.8ha (一般) A=30.6ha 合計A=61.4ha				
②隔障物整備	電牧 L=17,742m				
③					

3 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	大規模草地は、国営草地開発事業で昭和５０年に整備完了後、経営のなかで草地整備に取り組めず、施設・機器も老朽化していたことから、公共牧場等の再編を実施し、整備が必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	牧場の有効利用による農家の労力削減、特に哺育牛の労力軽減による農家の経営拡大を進め、地域酪農振興が図られる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効／概ね有効／課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	十分に削減措置済みである。
	<div><input type="checkbox"/>事業費抑制</div> <div><input type="checkbox"/>人員抑制</div> <div><input type="checkbox"/>時間短縮・作業軽減</div> <div><input checked="" type="checkbox"/>その他</div>	
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

☐ A：計画どおり事業を進めることが適当 ☐ B：事業の進め方等に改善が必要
☐ C：事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 ☐ D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
平成19年度にて事業完了。		

今後の展開方向

(Action)

終了		

* 展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 8-9

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	国営造成施設管理体制整備促進事業			
評価者	担当課・係名	産業振興課基盤整備係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	石井弘道	氏名
事業の概要	平成21年度、雄武ダム供用開始に伴う施設管理委託に先立ち、早期に操作・管理等の技術の習得を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	
	基本政策	1	農業の振興	
	単位施策	1	土地基盤の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	1,451千円	15,415千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	千円	128千円	2,367千円

2 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が(対象)】	操作員・整備員	指標／目標	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	ダム施設の操作・管理。				
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	ダム施設の操作・管理の技術習得。		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	ダム管理体制の確立。		①	目標年度 目標値 実績値 達成度	年度 % %
			②	目標年度 目標値 実績値 達成度	年度 % %
内 容（どのような手段で何を行ったか）					
①操作運転	各施設の設計内容・施工経過等の確認、操作手法の確認。				
②点検整備、機械器具	各施設点検内容確認、巡回点検等。				
③					

3 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	将来の施設管理委託に先立ち、早期に操作・管理等の技術習得が必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況	ダム管理体制の確立に向け、有効と判断する。
	<input type="checkbox"/> 達成	
有効／概ね有効／課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由	コスト削減の余地はない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
効率的／概ね効率的／課題あり	<input type="checkbox"/> 人員抑制	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

☐ A：計画どおり事業を進めることが適当 B：事業の進め方等に改善が必要
☐ C：事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
施設管理委託までの技術習得として、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持		
供用開始予定前年度（平成20年度）まで、現状維持が適当である。		
＊展開方向の区分 <input type="radio"/> 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 廃止		

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 8-10

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武中央地区道営かんがい排水事業調査費負担金			
評価者	担当課・係名	産業振興課基盤整備係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	石井弘道	氏名
				係長
				永井栄次
事業の概要	平成20年度事業着手予定の道営かんがい排水事業の平成19年度事業採択に向けて、地区の調査を行い計画樹立を図る。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	
	基本政策	1	農業の振興	
	単位施策	1	土地基盤の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	千円	3,263千円	千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	千円	3,263千円	千円

2 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が(対象)】	道営かんがい排水事業受益者	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	干ばつ被害により、営農を阻害。				
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	畑かん施設の導入により、粗飼料の高位安定及び品質の向上を目指す。		指標(指標計算式／解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	粗飼料生産の向上により酪農経営の安定を図る。		①	目標年度 目標値 実績値 達成度	年度 % %
			②	目標年度 目標値 実績値 達成度	年度 % %
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
①調査	地区調査				
②計画	畑かん工種計画、営農計画、経済効果算定等				
③					

3 事務事業の評価（Check）

(1) 事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	畑かん施設の導入により、粗飼料の高位安定及び品質の向上を図るため必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	粗飼料生産の向上により酪農経営の安定を図るため行う、道営かんがい排水事業の平成19年度事業採択のための調査・計画樹立であり有効である。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的	判断の理由 <input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	十分に削減措置済みである。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

☐ A：計画どおり事業を進めることが適当 ☐ B：事業の進め方等に改善が必要
☐ C：事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 ☐ D：事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A 平成19年度にて事業完了。		

今後の展開方向

(Action)

終了		

* 展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止

5 その他特記事項

--